



第21回 古代インドの王朝と仏教①

1 都市国家の成長と新しい宗教

- ・ヴェーダ時代が終わるころに政治の中心はガンジス川の中・下流域にうつり、前6世紀頃には城壁で囲まれた都市国家が成立した。
- ()、続いてそれを併合した () が成立した。
- これらの国で、バラモン教を批判する新しい宗教が生まれた。

★ ()

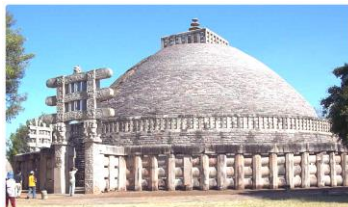
創始者… ()

- ・前563年ころ、現在のネパールでシャカ族の王子として生まれた。
- 29歳で妻子を捨てて出家し、断食や息止めなどの厳しい修行を行った。
- 修行をやめて、ブッダガヤの菩提樹の下で瞑想中に悟りを開いた。
- ※そのため「悟った者」などの意味で、() とも呼ばれる。
- サールナートでの説法を皮切りに各地で活動し、仏教教団を組織した。
- ・80歳で亡くなったが、遺骨である仏舎利への信仰が広まっていった。
- 仏舎利を納めた () と呼ばれる墓が各地に作られた。



手塚治虫『ブッダ』

ブッダの生涯について興味があれば、とりあえずこのマンガを読もう。名作中の名作である。教室に置いておきたい作品のひとつ。



サーンチーのストウーパ(仏塔)

ストウーパというのは、ブッダの遺骨(仏舎利)をおさめた塔のこと。卒塔婆の語源でもある。なお世界中に残っている仏舎利を集めると、像一頭分くらいになるらしい。



<仏教の教え>

- ・バラモン教の難解な儀式やヴァルナ制を否定した。
- ・一切のものは諸行無常であるとし、() を実践することで、自らの欲望である () を捨て去れば、解脱できると説いた。

★ ()

創始者… ()

- ・前549年ころに生まれ、マハーヴィーラ(偉大なる勇者)とも呼ばれた。
- ・ヴァルナ制を否定し、() の戒律を厳しく守ることによる解脱を説いた。
- ・現在はインドに300万人以上の信者がおり、特に商人などに多い。



ヴァルダマーナ

ブッダと同じく、ヴァルダマーナもクシャトリア階級の出身である。13カ月の瞑想を経た後、全ての衣服を捨てて裸となった。



現在のジャイナ教徒

ジャイナ教徒の出家信者の姿には、ジャイナ教の教義がよく表されている。なぜ商人に信者が多いのかも考えてみよう。レレレのおじさん。

2 古代インドの統一王朝

- ・前4世紀ころ、マガダ国の一王朝であるナンダ朝が勢力を伸ばしていた。
→前326年、西方からの（ ）の遠征で混乱した。

☆（ ）（前317年ころ～前180年ころ）

都…（ ） ※ガンジス川流域

◆（ ）（在位前317年ころ～前293年ころ）

- ・ナンダ朝を倒してマウリヤ朝を建国し、インド統一の基礎を固めた。

◆（ ）（在位前268年～前232年ころ）

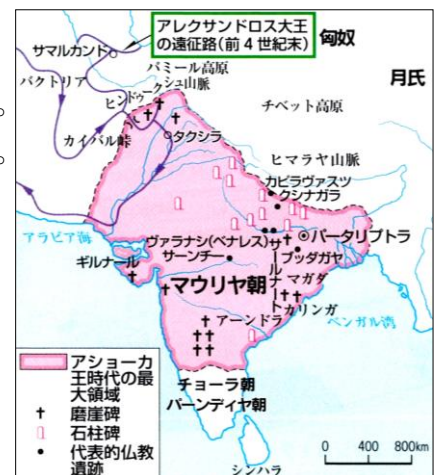
- ・第3代の国王で、さかんに戦争を行って南端部をのぞくインド全域を支配した。

→特にカリంగాを攻めた際に多くの犠牲者が出たため、晩年は仏教に深く帰依するようになり、（ ）にもとづく政治を行った。

→内容を布告するため磨崖碑や石柱碑が各地に建てられた。

- ・ブッダの教えを確認するため（ ）を行った。

- ・マヒンダ王子が（ ）に仏教を伝えたとされる。



仏教に帰依する前に、兄弟99人を殺したとされるが、これは誇張である。彼自身は仏教徒であったが、全ての宗教の保護を宣言している。

アショーカ王



アショーカ王の石柱碑

石柱碑の下には、ダルマ(法)を表す法輪が描かれている。ダルマとは、人間が守るべき倫理を意味する言葉である。

3 インドの分裂

- ・ギリシア系のバクトリアやイラン系遊牧民のサカ族が侵入した。
→1世紀にイラン系のクシャーナ人がクシャーナ朝を建国した。

☆（ ）（1～3世紀ころ）

都…（ ） ※現在はパキスタンのペシャワール

◆（ ）（在位130年ころ～170年ころ）

- ・クシャーナ朝は東西交易で栄え、ローマ帝国とも交易を行った。
- ・全盛期の王で仏教をあつく保護し、第4回仏典結集を行った。
- ・大乘仏教が起こり、（ ）などが盛んになった。
- ・240年ころ、ササン朝ペルシアの侵攻などにより崩壊した。



☆（ ）（前1～後3世紀ころ）

- ・ドラヴィダ系アーンドラ族の王朝で、インド中部のデカン地方を支配した。

- ・季節風（モンスーン）を利用して、ローマ帝国と交易を行った。

※当時の貿易の様子は『 』に書かれている。